

# 環境負荷

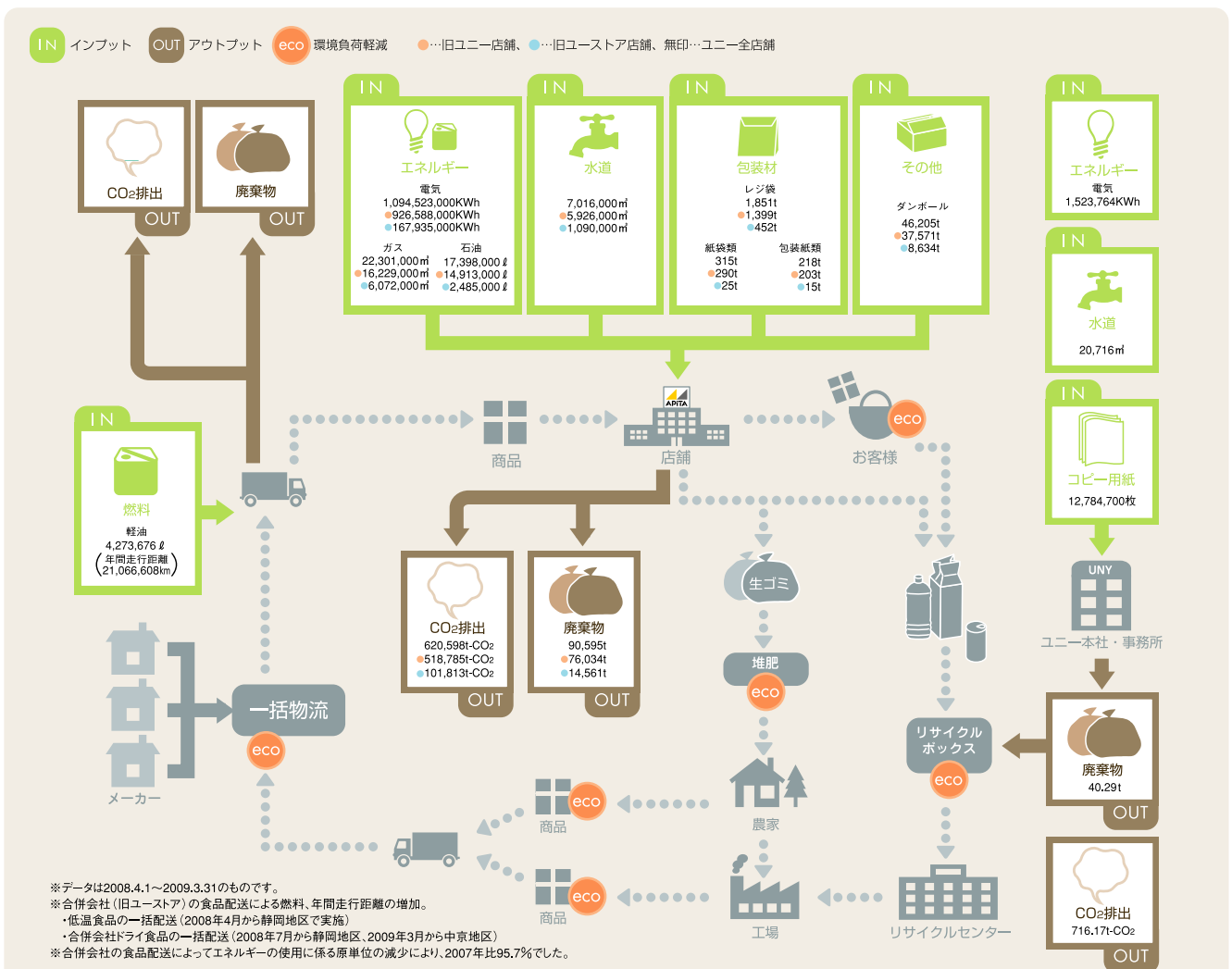
ユニーの各店舗や本社・事務所は、事業活動にともない、地球環境に影響をおよぼしています。これを環境負荷といいます。環境負荷をできるだけ出さないように、また継続的に軽減していくために環境負荷の実態を調べ、従業員や関係している人々が、それぞれの役割のなかで環境活動を実践しています。

## 事業活動の環境に対する影響

ユニーの事業活動のなかで環境負荷の大きいものは、店舗のエネルギー使用とそれにとまなうCO<sub>2</sub>の排出です。また、商品の物流も運輸にたくさんの燃料を使用したり、倉庫の冷蔵冷凍保管などにも多くのエネルギーを使用し、CO<sub>2</sub>を排出しています。エネルギー使用だけでなく、店舗から毎日排出する廃棄物やお客様が商品と一緒に家庭に持ち帰る容器包装も大きな環境負荷になります。

ユニーはこれらの原因を明らかにし、環境負荷低減のために努め、エコ・ファースト企業として持続可能な社会を目指します。

## 事業活動における環境負荷



※データは2008.4.1～2009.3.31のもので、  
 ※合併会社（旧ユースタ）の食品配送による燃料、年間走行距離の増加。  
 ・低温食品の一括配送（2008年4月から静岡地区で実施）  
 ・合併会社ドライ食品の一括配送（2008年7月から静岡地区、2009年3月から中京地区）  
 ※合併会社の食品配送によってエネルギーの使用に係る原単位の減少により、2007年比95.7%でした。



業務本部  
システム物流部  
物流担当  
村井秀紀さん

2008年度は、8月21日以降ユースタとの合併で輸送量が大幅に増加したことにより、エネルギー使用量、輸送量ともに昨年度をオーバーしています。ただし、原単位（輸送量に対するエネルギー使用量）は前年比96.2%と効率化できました。

また、輸送時に使用するダンボールは、エコ・ファーストの約束にある「配送時通い箱に転換をすることにより2012年度までにダンボールの廃棄物排出量を2007年度に比べ10%削減します」という目標を達成するため、JSA主催の食品クレート標準化協議会のなかで通い箱の実現に向けて検討を進めています。さらにチルド食品系標準クレートを2009年秋より中京エリアに導入する計画です。また、衣料系のオリコン物流も地域拡大に努めていきます。大型車両や混載便による便数削減、環境負荷軽減車両などの導入も含め環境に配慮した物流システム構築を推進していきます。